

プライム脳神経外科

1 脳動脈瘤

監修：木内博之，斉藤延人

編集：木内博之

小川 彰

岩手医科大学

このたび，三輪書店より「プライム脳神経外科」が山梨大学木内博之教授，東京大学斉藤延人教授の監修により全6巻シリーズとして「脳神経外科の最高の手術書」を目指して刊行が開始されました。6巻のテーマは，「脳動脈瘤」，「脳虚血」，「脳・脊髄動静脈奇形と頭蓋内・脊髄硬膜動静脈瘻」，「グリオーマ」，「頭蓋底腫瘍」，「機能外科的疾患」であり，今後約1年半で順次発刊されていく予定とされています。

第1巻の「脳動脈瘤」の責任編集は山梨大学木内博之教授です。ご本人の執筆はもとより，日本の脳神経外科をリードしつつある比較的若い新進気鋭の先生方を執筆陣に迎えています。

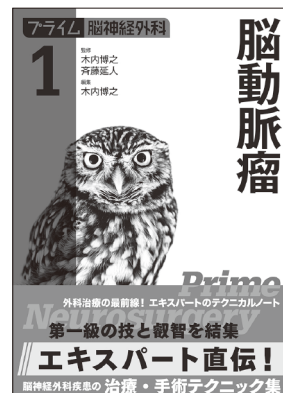
各章の構成は「病態と診断」，「モニタリングの基本手技」，「血管内治療」，「クリッピングのアプローチ」，「クリッピング」，「コイル塞栓術」，「難易度の高い動脈瘤の治療」，「特殊な動脈瘤」の8章立てとなっており，日常診療で経験する動脈瘤の治療に必要な情報が網羅されています。

本書の特徴として特筆すべきは，イラストの美しさや的確性で

す。各部位の手術に必要な術野の展開法，さまざまなクリッピングのテクニックのポイントが一目瞭然と理解できるよう工夫されています。また，「コツ」，「工夫」，「トラブルシューティング」，「ピットフォール」を理解しイメージでき，実際の手術に際しどのような手順で進めればよいか，何に気をかければよいか，どんな落とし穴が潜んでいるか，トラブルが生じたときの対処法などについて「クオリティ高いイラスト」が手助けしています。

また，重要なポイントについては，あちこちにBOXが配置され，箇条書きで簡潔明瞭にまとめられており，「クオリティ高いイラスト」と相まって理解を深めてくれるようになっています。

本書は，通読し勉強することによって，日本脳神経外科学会専門医試験のバイブルとして活用できると思います。それ以上に，主治医を担当した診療の現場で本書の力が発揮されるものと思います。すなわち，症例の関連ページだけを参照すれば，治療法決定のポイント，また，手術（開頭，血管内）に際してはどのようなモニタリン



グを準備すべきか？ アプローチの選択と注意点，動脈瘤の部位，向きなどによってどのような術野展開をし，どのようなクリッピングをするか？ を，術前症例検討会その他の場で，後日実施される手術治療のセッティングから手術終了まで治療の流れすべての「シミュレーション」が可能となるのです。

本書の監修者，編集者，執筆者の目論見はまさにここにあったものと思います。診療に忙殺されきわめて忙しい脳神経外科医が「クオリティ高い手術」を提供できるツールとして，本書を利用していただきたいと考えて監修したに違いありません。本書を利用し，世界に冠たる質の高い脳神経外科医療を提供し国民の負託に答えていただき，読者の皆様が将来の新たなエキスパートとして活躍していただきたいと思います。

●定価（本体 16,000 円＋税）
A4 判，352 頁，三輪書店